

2015 年度 順天堂大学(医)入試 英語解答速報

200 点満点

I

【解答】 小計 40 点

問1 [20 点(各 4 点×5)]

(1) 2 (2) 3 (3) 1 (4) 4 (5) 3

問2 [12 点(各 4 点×3)]

(1) 2 (2) 4 (3) 1

問3 [8 点(各 4 点×2)]

(1) 4 (2) 1

【解説】

問1

- (1) 「第 2 段によれば、仕事は通常 _____ の原因と見なされている」
1. 「気晴らし」
 2. 「ストレス」 第 2 段第 1 文で、「仕事はアメリカ人にとって大きなストレスの原因と広く見なされている」と述べられている。したがって、これが正解。
 3. 「実現, 満足感」
 4. 「対立」
- (2) 「ダマスク博士は、職場の方が楽しいのは _____ からだと言っている」
1. 「家庭や子供が苦痛の原因であるかも知れない」 第 4 段第 1 文で「人々のストレス度が仕事をしているときに下がると言っても、それは彼らが家庭や子供が好きではないことを意味するとは考えていない」と述べられていることに反する。
 2. 「自分たちの努力が家庭よりも職場での方が認められやすい」 本文で言及されていない。
 3. 「仕事のいくつかの要素が彼らにとって意味がある」 第 4 段第 2 文で、「仕事には自分にとって良いことが何かある」と述べられている。したがって、これが正解。
 4. 「退屈な家事から離れていられる」 本文で言及されていない。
- (3) 「フルタイムの仕事を持っている女性は _____ 傾向がある」
1. 「男性より仕事に幸せを感じる」 第 6 段第 2 文で、「長期的にフルタイムで雇われ続けている女性は、雇われ続けたい仕事に就いている」こと、そして直

後の第3文で、「仕事の質が高いので、女性は男性よりも仕事に満足しているのだろう」と述べられている。また、これに先立って第5段第2文で、「女性は家にいるより仕事をしている時の方が楽しかった」とも述べられている。したがて、これが正解。

2. 「男性よりもストレスを感じない地位を与えられている」 選択肢1でも挙げた第6段第3文で、「仕事の質が高いので、女性は男性よりも仕事に満足しているのだろう」と述べられていることに反する。
 3. 「一家の大黒柱としてのプレッシャーを受けている」 本文で言及されていない。
 4. 「家の外より家の中で働く方を好む」 第5段第2文で、「女性は家より職場の方が楽しい」と述べられていることに反する。
- (4) 「この論文に基づけば、週末には、_____」
1. 「男性は女性よりも家でストレスを感じる」
 2. 「女性は男性よりも家でストレスを感じる」
 3. 「男女ともに家でストレスを感じる事が(仕事日よりも)多い」
 4. 「男女ともに家でストレスを感じる事が(仕事日よりも)少ない」 第7段第1・2文で「特に、週末に感じるストレスに性差はなく、誰もが週末はストレスが低い」と述べられている。したがて、これが正解。
- (5) 「ダマスク博士は _____ と指摘している」
1. 「仕事と家族は互いに両立しない」
 2. 「女性は仕事と家族生活とを両立させるのが苦手だ」
 3. 「仕事と家庭とのバランスをとることはやりがいがある」 第9段第2文で「仕事と家族を結び付けるものに関して、家庭が少し楽しい場所でなくなってしまうものがある」と述べられている。したがて、これが正解。
 4. 「従業員は家庭でストレスに対処する責任を負う」 本文で言及されていない。

問2

- (1) 「第2段の‘significantly’（「大いに」）という語がある。以下の語のうち、同じ意味を持つ語はどれか？」
1. 「わずかに」
 2. 「かなり」
 3. 「積極的に」
 4. 「偽って」
- (2) 「家庭と会社とで感じるストレスの差を少なくする方法として提示されているのは何か？」
1. 「週日の労働時間を延ばすこと」 第9段第1文で否定されている。

2. 「家族と過ごす時間を短くすること」 第9段第1文で否定されている。
3. 「家庭に柔軟な責任を割り振ること」 本文で言及されていない。
4. 「柔軟な就労形態を導入すること」 第8段第1文で述べられているように、「雇用者が、フレックスタイムや...を与えることを含めて、もっと家庭に配慮した(労務管理)政策をとること」である。したがって、これが正解。

(3)

1. 「職場は楽しい場所でしょうか？」 第1段で「職場と家庭でどちらがよりストレスを感じるか」とテーマを設定し、それに対して、第2段以下で性差によるストレスの感じ方の違いなどを論じながら、全体として家庭と両立させる就業形態について論じている。したがって、これが正解。この小論の要点は、ストレスが仕事と家庭との関係で説かれていることにあるに注意すれば他の選択肢は外しやすい。
2. 「家族はどの様にあなたにストレスをかけるのでしょうか？」 family しか含まれていないので不可。
3. 「職場ではいつストレスを感じるのでしょうか？」 work しか問題とされていないので不可。
4. 「あなたの^{はにゅう}埴^{やど}生の宿¹はどこでしょうか？」 stress について触れられていないので不可。

問3

- (1) 冒頭の‘The finding’が第3段第2文の‘they found that … she went home’を受けている。したがって、解答は4。
- (2) 第6段の出だしに‘Another reason’「もう一つの理由」とあることに注目する。すでに第5段で、女性の方が職場でストレスを感じるものが低く、また働くのが楽しいと感じていることが述べられている。したがって、[B]の叙述は、その一つ目の理由として空所5に入り、その後第6段で2つめの理由が挙げられていると考える。

II

【解答】 小計40点

問1 [32点(各4点×8)]

(1) 4 (2) 2 (3) 2 (4) 1 (5) 3 (6) 3 (7) 2 (8) 3

問2 [8点(各4点×2)]

¹ 床も畳もなく「埴」(土=粘土)を剥き出しのままの家のこと、そんな造りであっても、生い立ちの家は、「玉の^{よそお}装い」を凝らし「^{るり}瑠璃の床」を持った殿堂よりずっと楽しく、また頼もしいという内容。[Wikipedia]

(1) 4 (2) 2

【解説】

問1

(1) 「著者の総合医は _____ 」

1. 「屋内にいるのが好きで、屋外でのスポーツをしたがらない」 第4段第2文で、「休日に丘を歩いて過ごす」とあるので不可。
2. 「たいていの方は栄養補助食品を摂取しなければならないと考えている」 第4段第2文で、「たいていの方にとっては、ほとんどの栄養補助食品は無価値であると考えている」とあるので不可。
3. 「国中でビタミンの栄養補助食品を無料で提供している」 本文で言及されていない。
4. 「ビタミンDの栄養補助食品が彼自身にとって必要である」 第4段第2・3文で、「私の総合医は…たいていの栄養補助食品に関しては、ほとんどの方にとっては無価値だと考えているが、ビタミンDに関しては例外で、彼はそれを自分で服用している」と述べられている。したがって、これが正解。

(2) 「総合医の診察を受けた後で、著者は _____ 」

1. 「恐らく友人にもらったビタミン剤を飲み始めた」 第5段第1文で、「たまたま、家に一瓶あった。それは友人からもらったものだった」と述べられている。しかし、第2文で「私はアウトドア派の人間なので、それが必要ではないと考えて、その錠剤を飲まないで取っておいた」とある。したがって、この選択肢は不可。
2. 「もらったビタミンDの栄養補助食品を摂取するのを拒んだ」 選択肢1と同じ理由で、これが正解となる。
3. 「友人の一人にビタミンDの錠剤が入った瓶をあげた」 錠剤は著者が友人からもらったので不可。
4. 「以前よりも戸外活動をしようとした」 本文で言及されていない。

(3) 「 _____ ように思われる」

1. 「著者はビタミンが足りているイギリス人の集団に属している」 第3段から最終段までの叙述からわかるように、著者も他のイギリス人と同様にビタミン不足である。したがって、不可。
2. 「イギリス人の約20パーセントが十分なビタミンが取れていない」 第6段第2文で「イギリスでは5人中1人もの多くがビタミン不足である」と述べられている。したがって、これが正解。
3. 「著者にはビタミン不足問題を抱える友人がたくさんいる」 本文で言及されていない。

4. 「イギリスの約 20 パーセントの人々がビタミンを摂取する努力をしていない」 第 8 段第 2 文で、「バランスが取れた食事をしていてもビタミン D 自体を十分に摂取できないことを認識している人はほとんどいない」と述べられている。しかし、それを具体的に「約 20 パーセントの人々が努力をしていない」とまでは断言していない。したがって、不可。
- (4) 「医療専門家は _____ と述べている」
1. 「くる病の数は近年劇的に増加している」 第 7 段第 1 文で「くる病…の患者が近年急激に増加した」と述べられている。したがって、これが正解。
 2. 「屋内で過ごす時間が少なすぎる子供はくる病に罹るリスクがある」 ‘indoors’ 「屋内で」ではなく ‘outdoors’ 「屋外で」にしなければならない。
 3. 「過度に日光に当たるのは、くる病のリスクがあるので、避けるべきだ」 ‘too much sunshine’ 「日光に当たり過ぎる」のではなく、 ‘too little sunshine’ 「日光に当たるのが少な過ぎる」にしなければならない。
 4. 「くる病はもはや今日のイギリス社会の問題ではない」 本文で言及されていない。この選択肢には ‘no longer’ 「もはや～しない」がある。このような否定語句は本文が肯定的内容となっている時に、しばしばキズになる語句となる。
- (5) 「十分な日光に当たらないと、 _____ 」
1. 「十分なビタミン D を作り出せるように、食事には気をつけなければならない」 第 8 段第 2 文で、ビタミン D は「いくらかの量は食事から補給できても…バランスが取れた食事でも十分な量は得られない」と述べられている。したがって、不可。
 2. 「必要以上のビタミンを作り出す傾向がある」 第 9 段第 1・2 文で、「日光は必要である。しかし、それによって実物のビタミンが十分な量で得られなければ、瓶入りの日光である補助品がよい代用品となる」と述べられている。したがって、不可。
 3. 「私たちがビタミン D を自分で作り出すことは不可能だ」 第 8 段第 2 文で、「ビタミン D は私たちが自分で作れる唯一のビタミンである」とは述べているが、その直後で「日光が皮膚に当たる作用を通して」と補足されている。したがって、これが正解。
 4. 「ビタミンを正しく作用させるのは難しい」 本文で言及されていない。
- (6) 「来年の 10 月には、著者は _____ だろう」
1. 「ビタミン D の摂取をやめる」 本文で言及されていない。
 2. 「ビタミン D 剤の瓶を空にする」 本文で言及されていない。
 3. 「もう一度ビタミン D 剤を服用し始める」 空所 7 と 8 の間にある第 11 段で、「来年の 10 月にもう一度ビタミン剤の瓶に手を伸ばすだろう」とある。

したがって、これが正解。

4. 「ビタミン D 剤の 2 つめの瓶を買う」 本文で言及されていない。

(7) 「 _____ と言う人もいる」

1. 「ビタミン D は様々な病気を防ぐ効果があるが、それには十分な証拠がない」
空所 8 から 2 つ目の段落である第 13 段第 1 文で、「ビタミン D はこのような病気(心臓病やガンなど)を防ぐ効果があるかも知れないが、これまでの所、証拠が欠けている」と述べられている。しかし、これは著者の見解である。設問は **Some people argued** になっているので、この選択肢に一致しない。
2. 「ビタミンを取り過ぎても問題はない」 ビタミンを大量にとることに関しては、第 12 段第 1 文で **'some have recommended'** 「中には勧める人がいる」と述べられているので、この選択肢が正解。第 13 段第 2 文でも、 **'some doctors have recommended'** 「医師にも勧める者がいる」と補説されている。なお、著者自身は **'I shall not ... be taking the mega-doses'** 「私は大量に服用することはない」と述べている。選択肢 1 でも見たように、選択肢の判定に際しては、それが「著者の主張」なのか「他者の主張」なのかを区別することが重要である。
3. 「人体は適切なビタミン D を作り出すのに十分健康であるべきだ」
4. 「様々なビタミン補助食品を摂取することで、いくつかの重大な病気が引き起こされる可能性がある」 第 13 段第 3 文で、ビタミンは大量に摂取すると有害になることさえあるとは述べられている。しかし、だからと言って、それで「重大な病気が引き起こされる」ともでは言い切っていない。なお、第 12 段第 2 文で、ビタミン D は「一種の万能薬」として、心臓病やガンなどの予防に効くことが述べられている。このような予防効果を挙げて、著者自身がビタミン剤を再び服用し始めることを述べているので、全体の論旨から甚だしく外れている。

(8) 「米国医学研究所は _____」

1. 「ビタミンを大量に摂取することを勧めている」 第 13 段第 3 文で、「望ましくない」と勧告している。したがって、不可。
2. 「より多くのビタミンを摂取すべきだと考えている」 本文で言及されていない。
3. 「必要以上のビタミンが売られていると主張している」 第 13 段第 2 文で「2010 年の報告書で、米国医学研究所は…ビタミンが過剰に売られていると結論づけた」と述べられている。また、その後の第 3・4 文でも「大量の摂取は医師にもそれを勧める者がいるが、不必要であり、有害でさえある場合もある。1 日に約 4,000 国際単位を越える摂取は勧められない、と当研究所は述べている」とされている。したがって、これが正解。

4. 「疾病予防で指導的な役割を果たしている」 本文で言及されていない。

問2

- (1) 空所4の直後の第7段落で、日光に当たらないことが原因である「くる病」が具体的に論じられている。[A]の文の最後で「くる病による奇形の恐れがある子供たち」という叙述があるので、それとつながる。したがって、解答は4。
- (2) [B]の出だしで「しかし、冬は話が別である」と述べられていることに注目する。空所6の直前の第9段第3文で、「夏には毎日手や顔に15分日光に晒されれば…十分足りる」と述べられていることと対照的な関係にあることがわかる。したがって、解答は6。

Ⅲ

【解答】 小計 40 点

問1 [24 点(各 4 点×6)]

- (1) 4 (2) 4 (3) 2 (4) 1 (5) 3 (6) 2

問2 [4 点]

2

問3 [12 点(各 4 点×3)]

- (1) 3 (2) 3 (3) 1

【解説】

問1

- (1) 「第2段の encoded(「記号化された」)と意味的に最も近いのは _____ である」
1. 「計算された」
 2. 「選ばれた」
 3. 「発射された」
 4. 「記録された」 encode は「記号化する」や「(データなどを)変換する」の意味。単語の意味自体は少々違うが、「見たことが長期記憶の中で変換されるためには」という文を「見たことが変換されて長期記憶の中に記録されるためには」と文脈上理解すればよい。
- (2) 「第8段の fleeting(「はかない、つかの間の」)と意味的に最も近いのは _____ である」
1. 「人を感動させる」
 2. 「永続的な」
 3. 「吸収する、夢中にさせる」

4. 「つかの間の」 この語は **fleeting** とともに名詞修飾のみで用いられる。
- (3) 「第 11 段の **suss out**(「調査する」)と意味的に最も近いのは _____ である」
1. 「尋問する」
 2. 「徹底的に調べる, 探索する」 **suss ~ out** の意味を「まさに脳のどの部位が違ったふうに機能しているのかを~したい」という文脈から「知りたい」くらいの意味であろうと推測する。S+ 他動詞 + **that** 節/**wh** 節となった場合, **that** 節や**wh** 節は人の認識内容や思考内容なので, 他動詞の位置にどのような動詞がきても, せいぜい「言う, 考える, 知る」くらいの意味だと理解して差し支えない。なお, 選択肢のうちで, **interrogate** と **survey** は, 本文の文脈の「脳の部位を調べる」という意味で用いるには不自然である。
 3. 「(人の意見や考えを質問形式で)調査する, (学問分野を)概観する」
 4. 「予期する」
- (4) 「第 1~3 段によれば, 脳の部位の活性化によって, 人は _____ ようになる」
1. 「夢をより鮮明に覚えている」 第 3 段落第 1 文に「夢をよく覚えている人は, 夢をあまり覚えていない人よりも, 側頭頭頂接合部が活性化している」とある。したがって, これが正解。
 2. 「ぐっすり寝入っているときに, 警戒している」
 3. 「朝簡単に起きられる」
 4. 「睡眠障害に罹る」
- (5) 「ロバート・スティックゴールドは _____ 」
1. 「ルビーとその共著者を彼らが取った研究方法で批判した」
 2. 「神経精神薬理学に現れた研究に参加した」
 3. 「数字を使って夢を思い出したり忘れたりする過程を説明した」 第 8 段に「スティックゴールドは, (短期記憶の中にある夢の記憶がいかに移ろいやすいかを示すために)5 ケタの数字を聞いた後, それを逆の順番で繰り返して言う(のが難しい)という例え話を挙げている」とある。したがって, これが正解。
 4. 「不眠症の原因を突き止める新しい研究を始める計画を立てた」
- (6) 「作業記憶は _____ 」
1. 「長期記憶が効率的に機能するのに役立つ」
 2. 「短期記憶は夢の記憶の断片を一時的に蓄えておくために用いられる」 第 8 段落で, 作業記憶の中にある夢の記憶が長期記憶の中に収納されなければ, 一瞬で消えてしまうことを, スティックゴールドが数字の記憶の移ろいやすさを例として挙げており, 第 9 段でバレットが, 「短期記憶の中では夢の記憶は移ろいやすい」と発言していることから, 作業記憶=短期記憶, ということ

がわかる。したがって、これが正解。

3. 「記憶力の低い人より記憶力が高い人の方が活性化している」
4. 「周囲の騒音に敏感に気づくのに役立つ」

問2 文中の **brain activation maps of sleeping subjects** 「寝ている被験者の脳の活性図」に注目する。第3段第1文に **the maps** という語に二度目に登場したことを示す定冠詞の **the** があることから、その直前の空欄2に入る。

問3

(1) 「第12段の ‘They’ という語は何を指しているか？」

1. 「PET 血流図」
2. 「記憶力の悪い人たち」
3. 「ルビーと同僚の研究者たち」 第10段～第12段に至るまで、実験内容が記述されている。したがって、‘They’は実験を観察している人たちである「ルビーと同僚の研究者たち」となる。
4. 「脳の領域」

(2) 「本文で示されていることは何か？」

1. 「記憶力が悪い人は、特別な薬を飲めば記憶力が良くなる」 本文で言及されていない。
2. 「記憶力が良い人は移動可能な装置を使えば利益が得られるだろう」 本文で言及されていない。
3. 「ルビーと同僚の研究者たちはしばらくの間この論題を研究してきた」 第10段で、‘a previous experiment’ 「以前の実験」とあることから、今回の実験の前にも彼らは、同種のテーマの研究を何度も行っていることがわかる。したがって、これが正解。
4. 「研究者たちは、脳の機能を記録するために装置を配って資料を集めた」 本文で言及されていない。

(3) 「本文に一番相応しいタイトルは何か？」

1. 「夢を思い出す秘訣」 本文は、夢の記憶メカニズムについて述べられている。
2. 「睡眠を改善する秘訣」
3. 「短期記憶を高める秘訣」
4. 「記憶検索を活性化する秘訣」

IV

【解答】 小計 40 点

問1 [20点(各4点×5)]

- (1) 1 (2) 3 (3) 4 (4) 2 (5) 3

問2 [20点(各4点×5)]

(1) 3 (2) 4 (3) 1 (4) 3 (5) 2

【解説】

問1

- (1) enormous 「(測ることができないほど)並はずれて大きな」 (ex 「外れて」 + norma 「基準」 + ous 「～の性質をもつ, 形容詞語尾」)
1. 「(驚きで震えるほど)大きい」 (cf. tremble 「震える」)
 2. 「肯定的な, 陽性の」
 3. 「明白な」
 4. 「適切な」
- (2) 「～に取り組む, ～を理解するようになる」
1. 「避ける」
 2. 「帰する」
 3. 「理解する」 grip, grasp, comprehend, apprehend などの単語は「つかむ」から「理解する」という意味が生じている。-prehend は「つかむ」の意味。
 4. 「与える」
- (3) 「短縮された, 略された」 (abbreviated = ad 「～の方へ」 + brief 「短い」 + ate 「～させる」という動詞語尾): 短い方に向けるようにする→「短縮する」)
1. 「消された」
 2. 「上げられた」
 3. 「急がされた」
 4. 「短くされた, 縮められた」 (-en は形容詞や名詞の後につけて動詞を作る。fasten, heighten, strengthen, sweeten, soften, lessen, lengthen, broaden, widen, tighten, weaken など)
- (4) 「流通しているもの」 (cur- 「流れる」が用いられている単語には, 他に current, occur, course, car, cart などがある)
1. 「条件, 期間, 用語」
 2. 「受け入れられていること」
 3. 「噂」
 4. 「紙幣」
- (5) 「有能な」 (cf. compete 「競争する」)
1. 「忍耐強い」
 2. 「十分な」
 3. 「有能な, 効率の良い」 (efficient = ex 「外に」 + facere 「行う」: 行ったことが外に影響を与える→「有能な」)

4. 「古代の」

問2

(1) 「ジョン・シンプソンは _____ 」

1. 「スカンジナビアの音声の変化を他の研究者とよく議論した」 第2 応答文の第2 文で「大昔のスカンジナビアの音声の変化について語っている」と人々が考えていることに対して、直後の第3 文で「それは事実ではない」と述べている。
2. 「OED が大規模なチームを雇うのは間違っていると考えていた」 第7 応答文の第1 文で「約70 人の編集者がいる」とは述べているが、それが間違っているとは述べていない。
3. 「ほぼ40 年間、辞書編纂をしてきて、その仕事が面白くなっている」 第1 応答文の最後に「ほぼ40 年にわたって辞書編纂作業に対して子供が魅惑されたような気持ちを維持することができた」とある。したがって、これが正解。
4. 「公文書を使うより、シェークスピアの引用により関心を持っていた」 第1 応答文第3 文で、「理解する必要がある歴史的・社会的側面が常にある」と述べていることに反する。

(2) 「OED に関しては、 _____ 」

1. 「作業を始めてから編集者は70 人いる」 第7 応答文の第1 文で「約70 人の編集者がいるが、そのうちの10 人ぐらいが語源移管する作業をしている」と述べられている。全体の編集者の人数と OED 編纂に関わった人数とは違うので不可。
2. 「現在の職員は年齢層が高すぎるので、清く世間の批判を受け止められない」 最終応答文の最終文の内容に反する。 **face the music** 「自分の行った行為に対して進んで責任をとる、潔く世間の批判を受ける」
3. 「編集者の大多数は新しい言葉に取り組んでいる」 第7 応答文の第2 文で、「編集者のうち約10 人が新しい言葉に取り組んでいる」とある。「大多数 (majority)」ではないので不可。
4. 「2000 年にオンライン版が公にされた」 第5 応答文の後半に、「オックスフォード大学出版局と話し合っ、2000 年にオンライン版を公にするように説得することができた」とある。本文に **managed to** があることから、2000 年にオンライン版が公にされたと言ってよい。

(3) 『雑誌』の項目は _____ 」

1. 「長年にわたって改訂されてきた」 第8 質問文の「頭の中にある単語のうちで改訂するのが面白い特別な単語があったか」という問いに対して、第8 応答文の中で **magazine** という単語の意味の歴史的変遷が語られている。
2. 「それはもともとスペイン語に由来する」 第8 応答文の第2 文で、「それは

もともと『倉庫』を意味するアラビア語であった」と述べられていることに反する。

3. 「それはかつて『本』と同じ意味を持っていた」 第8応答文の第5文で、「私たちが現在知っているような本や雑誌に変えられた」とあるので不可。
 4. 「元々の意味は誰も知らない」 第8応答文の最終文に反する。
- (4) 「個々の単語は言語という _____ の一部に過ぎない」
1. 「色」
 2. 「数」
 3. 「モザイク画」 言語をモザイク画という全体として捉え、単語をその構成要素として捉えればよい。さらに、それに続く文の **with the networks we're able to build up** という副詞句が文頭に出ているので、文法的に、この部分が既出情報であることから、**the networks** が **mosaic** のエレガント・バリエーション(Fowler によって批判されている二流の物書きが好んで多用する文装飾技巧)になっている点にも注目する。なお、選択肢の **stones** を「言語を構成する石材」と考えるためには物質名詞なので不可算でなければならない。そうしたイメージで捉えるならば、**stones** ではなく **bricks** なら許容できるであろう。
 4. 「石」
- (5) 「自分の行っていることがわかるまでは、つまり a から始まる語と o から始まる語の綴りの表記が、時代や方言によって、取り換え可能であることがわかるまでは、(B)から綴りが始まる語を避けるべきである。というのも、あらゆる種類の問題が生じてしまうからである。だから、(C)で始まる単語から辞書編纂作業を始めた方がずっとよいであろう」
1. 「B: 単語 C: 文」
 2. 「B: 母音 C: 子音」 母音が取り換え可能であったということから、(B)に母音が入る。それが入れば(C)は自動的に子音になる。
 3. 「B: 句 C: 段落」
 4. 「B: 発音 C: 強勢」

V

【解答】 小計 40 点

One of the most significant inventions in human history is the computer. There are several reasons for this view.

First of all, from a technological perspective, its emergence has led to the development of various high technologies, such as global communication networks,

cloning, nanotechnology, etc. These technologies are, of course, symbols in our modern society and they are bringing about revolutionary changes in medicine, bioengineering, information science, and so on.

Secondly, from an economic point of view, in this society, the primary economic activity transfers from manufacturing goods into knowledge-production and information-processing. Therefore, monetary wealth is eclipsed by knowledge and information as the primary determinant of power and its distribution.

Thirdly, from a political point of view, with the rise of the Internet it brought forth, the computer has transformed the very character of democracy from periodic polling toward a more direct interaction between the government and the general public. Typically, it caused the political revolution known as “the Arab Spring” in Middle Eastern countries. Even in modernized nations with parliamentary democracy, such as Japan and the USA, the assault on the nation-state from below with the Internet would include the gradual loss of consensus characterized in 20th century politics. It would also include the rise of regional interests and the progressive devolution of the nation-state itself. Generally speaking, a centralized, top-down bureaucratic political system would be replaced by a more open, democratic, decentralized one.

In the last place, in an historical perspective, the computer has led to explosive diffusion of a new civilization. An American writer and futurist called the impact “The Third Wave.” Compared with the other two great transformations, the Agricultural Revolution and the Industrial Revolution, the acceleration and extent of change are much faster and larger. Especially, in this so-called “Post-industrial Society” or “Information Age,” the traditional concept of wealth, which indicates the character of any society, has changed. The material resources which have been the most common mature degree of any society can be substituted by information. Today, “wealth” is created everywhere by “globalization”, nowhere by “cyberspace”, and out there by “outer space.” This means the computer network drives us into the borderless world both realistically and virtually with no end.

Now, we are in the process of creating a new civilization and this has all been brought about by the computer.

【解説】

テーマ…「人類に最も重要な影響の一つを与えたのはどんな発明だと思いますか。解答を詳しく書き、自分の意見を裏付ける特定の実例を挙げなさい(語数が多ければ、それだけ得点上がる可能性があります)。この論題に関係のない記述は評価されません」

解法…まず、自分の立場を明確にする。その上でその理由となる論点を最低でも2つは挙げる。その際、社会情勢の変化や世論の動向などを例証することで議論を客観化する。以上の点を押さえておけば、後は文法・語法的に間違いのない英文を書けばよい。特に、人称・数・時制などの見直しをすること。

[各論的講評]

大問1 「職場と家庭とでのストレスの感じ方の性差による違い」 読みやすい難のない英文である。設問も素直に解答が出るように出来ている。特に、この問題に関しては、昨今話題になっている **work-life balance** 「ワーク・ライフ・バランス」についての知識があれば解きやすいだろう。

大問2 「ビタミン摂取の過不足」に関する論説。テーマの妥当性や英文と設問の難易度は問題ない。しかし、問1の(7)は設問文で '**Some people argued that**' と言っているのに気づきにくいかも知れない。特に、選択肢の1が本文に匹敵する叙述になっていると勘違いしやすい。この点が認識できないとしても、それが受験生の英文読解能力とはさほど関係がない様に思われる。設問文や選択肢の設定にもう一工夫があっても良かったであろう。

大問3 「夢の記憶のメカニズムについて」の一論である。「夢」ならびに「記憶」に関する問題はよく出題されるので、これまでに同じような内容を読んでいたら理解しやすいだろう。

大問4 「OED 編纂者のインタビュー」 他の読解文とは内容的に異質であり、医学部の出題としては馴染みのない文学部や外国語学部で出題されるような内容である。その意味では、読みにくかったかも知れない。ただし、当大学は国公立大医学部受験者の併願も多い。国公立大学は医学部特有の出題はない。それを考えると、テーマとしては言語学が一番出題が多い分野なので、その分野の問題が出されても不思議ではない。さらに、問1の語彙問題は本文の内容が理解できていなくても解ける問題である。もっとも、問2の選択肢は少し選びにくいものであった。実際、それぞれの選択肢に関わる本文中の当該箇所が散在しているので、探しにくかったであろう。

大問5 昨年度の、動物実験の可否に関して意見を述べる問題と比べると、議論の対象が広いので書きやすい。しかも、話題としても、よく出題される論点なので、すでに相応の知識を持った受験生もいたであろう。また、昨年度と同様に、語数に応じて得点が上がる可能性があるというだけでも、得点源になれる可能性があった。その意味では、最低でも30点以上はとれなければならない問題である。

[総評]

読解問題が4題、英作文1題という構成である。その点では、2011年度以降の問題構成を踏襲している。

また、読解文のテーマは、いずれも興味ある論点を取り上げた問題である。読解文の難易度もさほど高くなく、読みやすいものとなっている。また、英作文のテーマも、順天堂らしい論説を書く技術が要求される質の高いものである。

時間的にも問題ない。

以上を総じて、問題の難易度と試験時間との関係を考えると、最低合格ラインは正規で80%ほどであろう。